

第6回 議会報告会実施報告書

開催日時	平成 28 年 4 月 2 日（土） 10 時 00 分から 11 時 50 分			
開催場所	高根沢町農村環境改善センター 研修室（2階）			
参加人数	15 人、市貝町議会視察者 14 名			
班構成	A 班			
役割分担	班 長	横須賀 忠利	総合司会	松本 潔
	書 記	佐藤 晴彦		
	報告者	総務常任委員会	鈴木伊佐雄、松本潔、齋藤誠治	
		教育福祉常任委員会	中山喜美一、加藤貞夫	
建設産業常任委員会		加藤章、渡邊俊		
報告会	平成 28 年度一般会計予算審査報告			
報告に関する 質疑	質 疑	答 弁		
	別紙のとおり	別紙のとおり		
意見交換会 ～お知恵はい しゃく～	<ul style="list-style-type: none"> ○総務：消防団員担い手不足を解消するには？ ○教育福祉：食育と福祉の充実をどう図る？ ○建設産業：町を盛り上げるためのイベントとは？ 			
意見・提言等	別紙のとおり			
備 考				

平成 28 年 4 月 21 日

高根沢町議会議長 様

議会報告会 班長 横須賀 忠利

第6回 議会報告会での質疑・意見等

平成28年度当初予算関係

	質疑等	報告会での答弁
総務 常任委員会	消防支援団員の報酬について	支援団員については27名×2万円となっています。
	4万人構想を見越した”来て・見て・住んで・・・たかねざわ”事業があるが、空き家対策は入っているのか。また、商工会などの建設事業とタイアップできるものがあれば協力願いたい。	空き家対策については、さまざまな事業に組み込まれている。例えば、創業支援事業においても空き家を利用した [※] インキュベーションについても選択肢となっている。 ※ 企業家の育成や新しいビジネスを支援する施設
教育福祉 常任委員会	質疑等なし	
建設産業 常任委員会	質疑等なし	

懇談会～お知恵はいしゃく～関係

	テーマ	皆様からの意見・要望等	議会の応答等
総務 常任委員会	消防団員担い手不足を解消するには？	消防団員を増やすためには報酬金額をあげてもいいのではないかと。 自治会加入率が低くなっている今、消防協力金のあり方についても今後検討していただきたい。	
		255名の消防団の定員数ということですが、将来を見据え、消防団員の定員数をあげて、予算を計上してみてもどうか。	
		消防団に入団した場合、町や消防団から勤務先に消防団活動に対する理解を得るために、正式な文書を出す試みをしてはどうか。そうすることによって、会社員も消防団活動に参加しやすくなるのではないかと。	
		消防団というと消火活動のイメージがあるが、実際はさまざまな活動を行っている。現在、女性消防団は防災の啓発活動等を行っているところであるが、女性や若い	

		人だけでなく、年配の方が活動できる、防災の啓発活動や、PR活動に重点をおいてみてはどうか。そうすることによって消防団の定義が変わってきて理解が深まるのではないか。	
		消防団員を辞める年齢層が40歳前半までが多いので、元気な50歳以上の方も支援員として活動できるように考えほしい。	
		認知症の行方不明者の捜索活動時には、地元の消防団が力を発揮する。消防団の実態をきちんとみて理解し、消防団の活動のPRが必要ではないか。 一部の消防団では、消火器の使い方などを高齢者に教えたりもしている。 地域の方が、様々なことに協力し合い、興味を持って消防団を育てる、見守ることをすると消防団は増えてくるのではないか。	
		消防団の活動のPRをすることで、関心を持ってもらうことができればいいのではないか。また、農村部においても活力がでるように人口が増加できるような対策をしていただきたい。	
	その他	雪が積もったときなどにすぐに消火栓がわかるように、消火栓に黄色などで色を付けてほしい。また、雪が積もったときにはみなで消火栓の雪かきをまず最初にしていただくようにアピールしていただきたい。	
		高齢者の免許証返納はどのようになっているのか。	免許証返納制度がある。65歳以上の方が運転免許を自主返納すると、デマンド交通システム「たんたん号」乗車券（33回分）が助成されます。 ※ 詳しくは地域安全課へお問い合わせください。 028-675-8110
教育福祉 常任委員会	食育と福祉の充実をどう図る？	食育と健康づくりに関し、高根沢高校生が開発に携わった「焼きちゃんぽん」等の新しい食のメニューと地産地消及び生活習慣病の対策を関連付けて、町内産食材（作物）の栄養分析、成分分析を図り、健康食	大いに参考にして行きたい。食育と地産地消の取組みとして例えるなら、今、学校給食で使っている「米飯」は全量町内産である。蔬菜類の使用料は20%代にとどま

		品をコンセプトにするのも一考かと思う。	っている。地産地消を進める上で、新鮮な食材で賄うこと。そして、フードマイレージを踏まえ、町内産の食材をさらに増やしてゆくように努力して行きたいと学校給食の例で示した。
		地産地消を進める前提から、住宅地に住んでいる方に対して、どこに行けば地産の農産物が買えるかという情報が足りないので、PRを積極的にやっていただきたい。	
	その他	介護保険会計の運営が厳しい状況にあるなら、介護保険事業の広域化を図ることなど改革を必要とする。	介護認定者と高齢化が強まる中、いずれの市町村でも介護保険会計の安定的な維持は難しい状況にあるが、高齢福祉計画の実効性を高めるよう努力して行きたい。
建設産業 常任委員会	町を盛り上げるためのイベントとは？	元気あっぷむらなどで、相撲関係のイベントを行ってはどうか。町民が参加をしやすいような、赤ちゃん相撲などを大々的にやって、町外からの参加者も募ってはどうか。	元気あっぷむらでは、元気あっぷ夏祭り、商工会ではちよつ蔵秋祭り、軽トラ市などを行っている。実行委員会でのイベントは、町民体育祭、たんたん祭りなど。たかねピアは、29回、平成20年まで行った。
		農家の作物のPRや実生活を表に出すイベントはどうか。	検討していく
		あちらこちらでイベントをするのではなく、例えば農協、商工会、町がタイアップして一カ所にまとめて合同でイベントを行ってはどうか。そうすることによって、経費も抑えられ、大きなイベントになるのではないか。	検討していく